

特別編集版

スマートホーム普及に向けて ～日本の現状と普及に向けた提言～

2024年7月

コネクティッドホーム アライアンス

禁無断転載

はじめに

コネクティッドホーム アライアンス（CHA）では2023年度に、スマートホームの普及に向けてレポートをまとめ、CHA会員企業向けに発行した。

本レポートでは、スマートデバイスが41%も普及しているアメリカの状況をデータを含めて明らかにし、日本での普及状況/意識調査結果と比較している。その結果から、日本における普及の壁を仮説構築し、その壁を超えるための提言を行っている。

今般CHA設立7周年を迎え、本レポートをより多くの関係者に見ていただくために、CHA会員企業向けレポートからエッセンスを抜き出して再編し、特別編集版として对外公表することとした。

なお詳細なデータが記載されているCHA会員企業向けレポートは、X-HEMISTRY株式会社から支援を受けて作成したものである。アメリカの現状に関するデータはX-HEMISTRY株式会社からの提供、日本の現状に関するデータは一般社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）スマートホーム部会とCHAが共同で実施した調査結果をもとにしている。

特別編集版の目次

■ 参考：会員向けレポートの内容	P.4
■ アメリカと日本におけるスマートホームの状況	P.5
・ アメリカのスマートホームの状況	
・ 日本のスマートホームの状況	
－ 利用率	
－ 利用意向	
－ 利用者の今後の利用意向	
－ 利用者の満足度	
■ 普及に向けた課題	P.11
・ スマートホームのあるべき姿	
・ 普及に向けた2つの課題	
■ 普及に向けた提言	P.14
・ 利用のきっかけ作りに向けた提言	
・ 初期設定やネットワーク設定の負荷軽減に向けた提言	
・ 参考：アメリカの事例「インストーラー」の存在	
■ 最後に	P.19

参考：会員向けレポートの内容

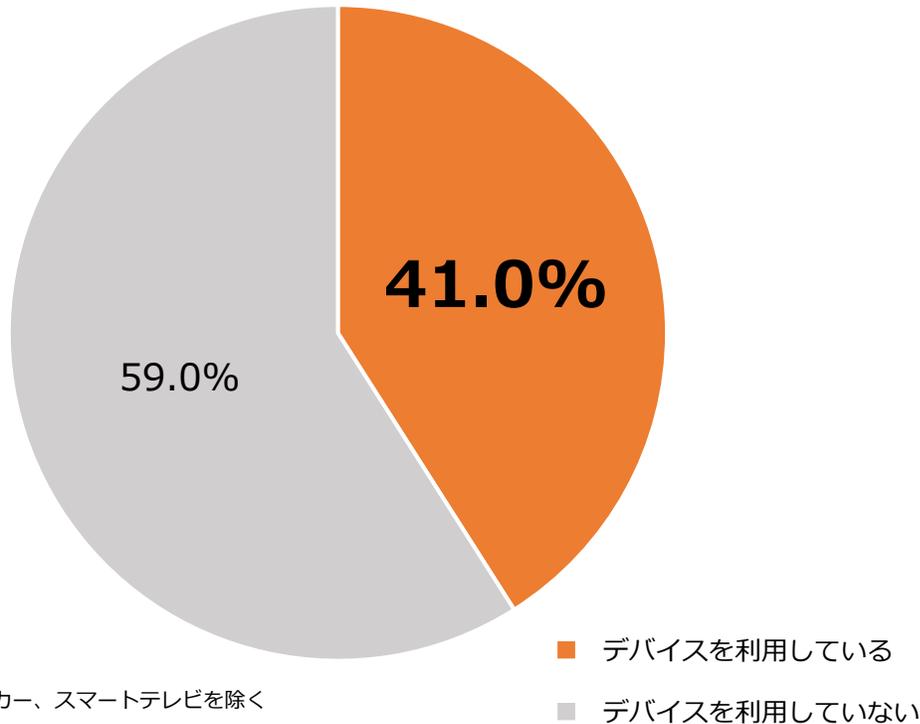
- エグゼクティブサマリ P.2
- 目次 P.3
- アメリカにおけるスマートホームデバイスの普及状況 .. P.4
 - ・スマートホーム先進国アメリカのスマートホームデバイス普及率
 - ・住まいのスマートホームデバイス装備を重視するか？
 - ・パワーユーザーの特徴
 - ・スマートホームデバイスの購入チャネル
 - ・（参考）売り切りからサブスクへの取り組み－Ringの事例－
- アメリカにおけるスマートホームの注目領域 P.10
 - ・スマートホームの2つの注目領域
 - ・注目領域①「スマートホームセキュリティ」
 - スマートホームセキュリティの出現
 - 広がるスマートホームセキュリティー普及率および領域拡大ー
 - ・注目領域②「スマートアパートメント」
 - アメリカの集合住宅
 - スマートアパートメントとは
 - スマートアパートメントのビジネスモデルおよびメリット
 - ・今後の注目領域「スマートエネルギーマネジメント」
 - エネルギーに関連する環境の変化
 - 今後の注目領域「エネルギーマネジメント」
 - スマートホームでのエネルギーコントロール
- 日本におけるスマートホームの状況 P.25
 - ・スマートホームという用語の認知率
 - ・分野別の認知率・利用意向率、デバイス利用率、利用者の男女比
 - ・スマートホーム認知者の無料サービス利用意向ー全体/年代別/性別ー
 - ・有料サービスの利用意向
 - ・利用者の他領域での利用意向
 - ・各分野の利用者満足度
 - ・日本における普及の壁
- 日本とアメリカの比較 P.37
 - ・日本とアメリカの共通点－直面する課題、コンシューマーの意識ー
 - ・日本とアメリカの相違点
 - ①生活環境、②設備・機器、③価値訴求、④業界構造、
 - ⑤「インストーラー」の存在
- まとめ P.45
 - ・スマートホームのあるべき姿および現状
 - ・日本での普及に向けた課題
 - ・解決案
 - ①家具付物件のスマートアパートメント化
 - ②若年層の利用シーン創出
 - ③安心できるトータルサービスの提供
 - ④新たな価値訴求
 - ⑤インストーラーの育成
 - ⑥ Matter対応
 - ・日本のチャンス－高齢者世帯および共働き世帯への訴求ー
- 最後に P.59

アメリカと日本におけるスマートホームの状況

アメリカのスマートホームの状況

アメリカはスマートデバイス普及率が **41.0%** に達している。デバイスの主な活用サービスは「ホームセキュリティ」および「スマートアパートメント」である。

アメリカでのスマートデバイス普及率



※2023年時点
スマートスピーカー、スマートテレビを除く

活用サービス① ホームセキュリティ

※スマートデバイスによりセキュリティサービスの普及率が **20% ⇒ 40%** に増大

活用サービス② スマートアパートメント

※代表的なサービスであるSmartRent社のサービス導入世帯数が**2020年から4年間で12倍の120万世帯**に増大

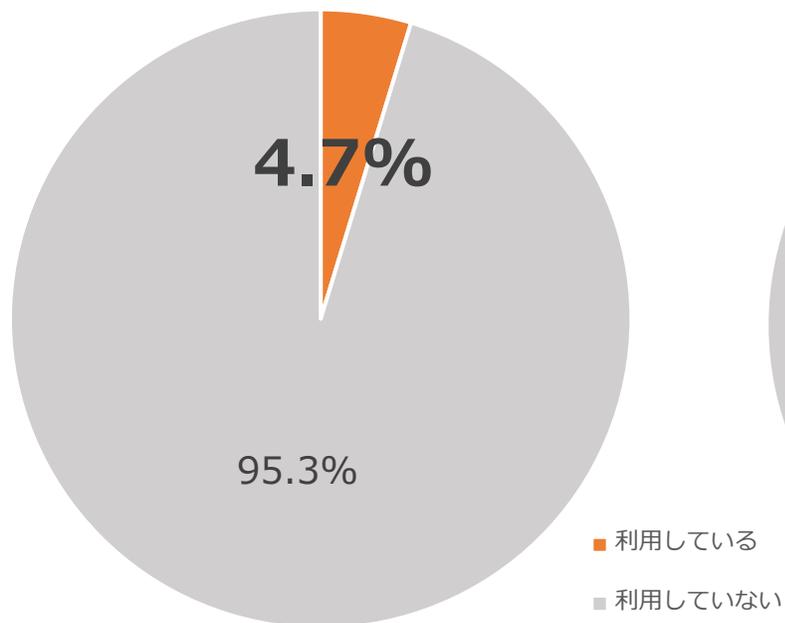
出典： Parks Associates
SmartRent社 ホームページ

日本のスマートホームの状況① 利用率

日本でのスマートホームデバイス利用者は、**利用率最大※の掃除機でも 4.7%**と少ない。

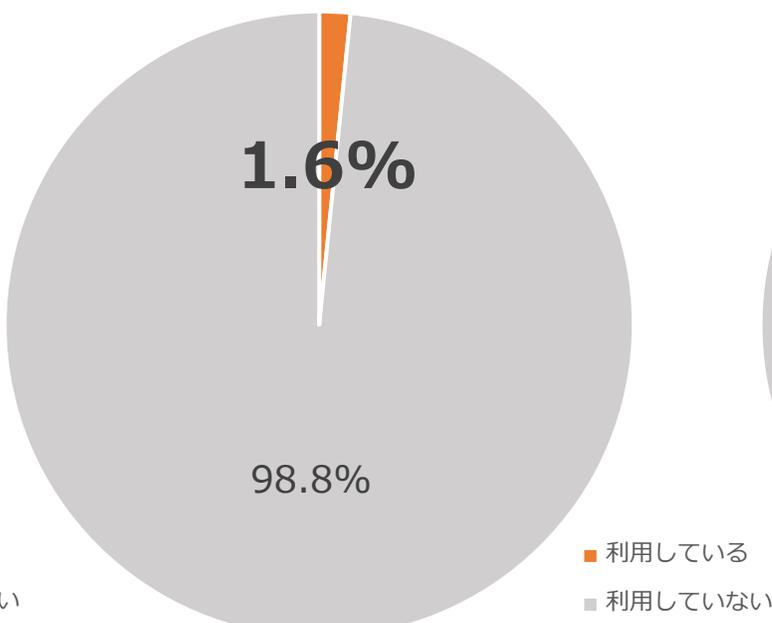
※スマートスピーカー、テレビ、スマートウォッチを除き、家電、住宅設備、健康、防犯/セキュリティ各分野のスマートデバイス現在利用者で

スマートホームデバイスの利用率
(家電：掃除機)



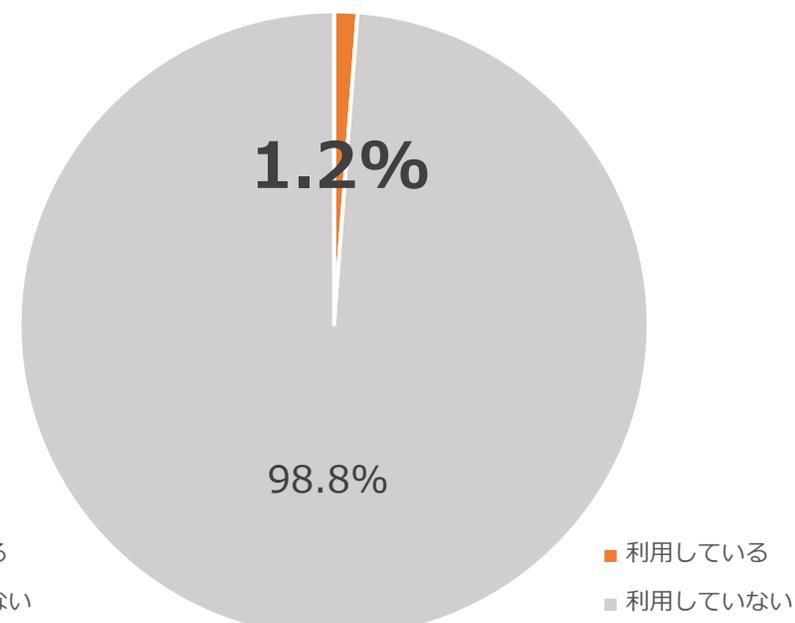
調査対象：10～60代の男女 20,000人

スマートホームデバイスの利用率
(家電：エアコン)



調査対象：10～60代の男女 20,000人

スマートホームデバイスの利用率
(住宅設備：スマートロック)



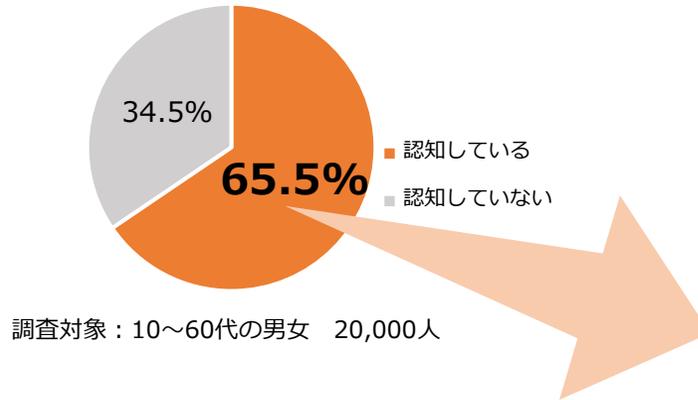
調査対象：10～60代の男女 20,000人

出典：JEITAスマートホームユーザー動向調査2022年

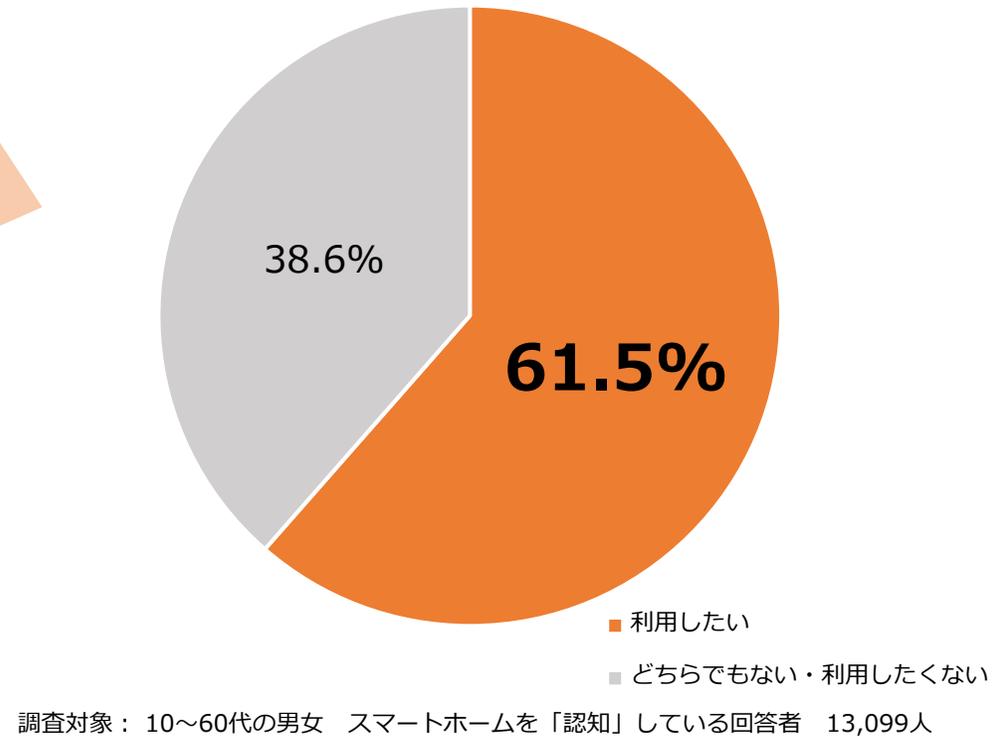
日本のスマートホームの状況② 利用意向

スマートホームという用語の認知者 65.5%のうち、61.5%は利用意向あり。

スマートホーム認知率



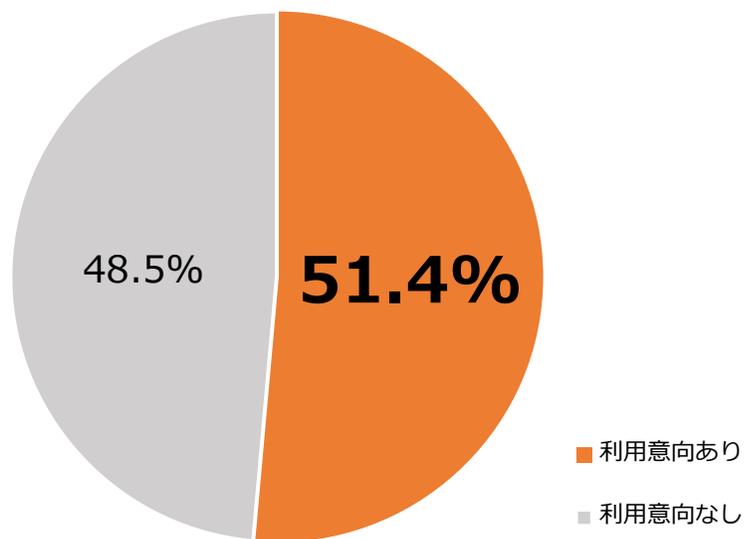
スマートホーム認知者（65.5%）のうち
スマートホーム無料サービス利用意向



出典：JEITAスマートホームユーザー動向調査2022年

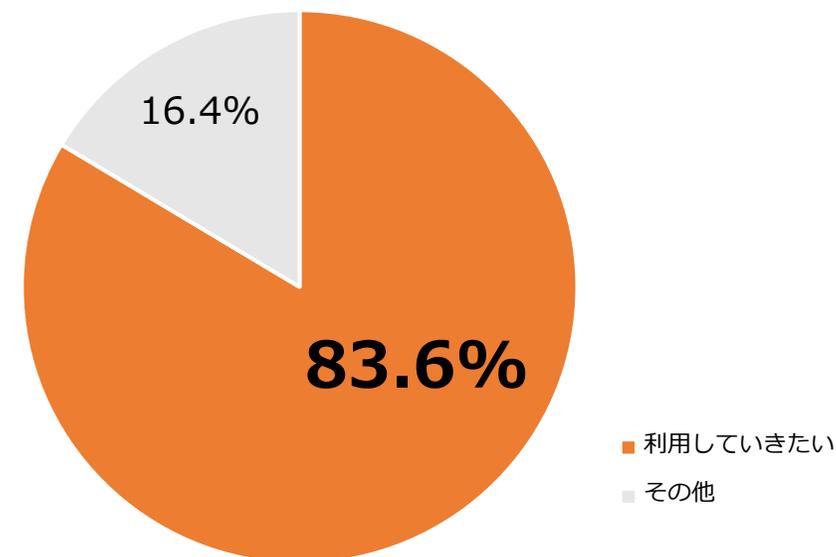
デバイス利用者は、有料サービスの利用意向が 51.4%、他分野サービスの利用意向も 83.6%と高い。

デバイス利用者の 有料スマートホームサービス利用意向



調査対象：10～60代の男女
スマートホームを「認知」、「現在利用」の回答者 465人

デバイス利用者の 他分野スマートホームデバイス利用意向

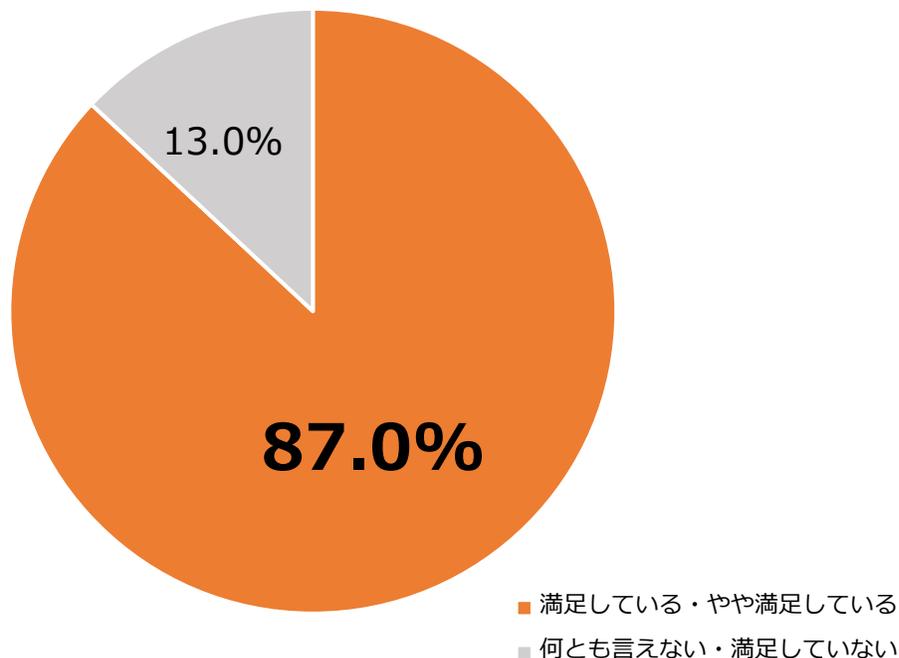


調査対象：10～60代の男女 スマートデバイスの利用者1,258人

出典：JEITAスマートホームユーザー動向調査2022年

操作や機能については満足度 **87.0%**と高いが、**初期設定や機器同士の連携に不満**が残る。

スマートデバイス利用満足度



調査対象：セキュリティ、スマート家電、住宅設備 の利用者661人



満足

- 自宅のセキュリティや安全性が向上
- 家事の時間が短縮された
- 操作が分かりやすい



不満足

- **初期設定が難しい**
- 他の機器が連携しづらい
- **インターネットの接続が難しい**

普及に向けた課題

スマートホームのあるべき姿

スマートホームのあるべき姿は、暮らしがネットワークでつながり社会を最適化した状態と考える。ただし現状の家は、①が大半。一部利用者が、家電など一部機器単体で②を実現している。

(現状では、**機器が単体で価値提供**しており、利用者の**個別ニーズが最適化**されている)
スマートロックやドアホンなど住宅設備も含めた連携および普及啓蒙が求められる。

<大半の家>



①イエは雨風をしのぐ場所

<一部の家>



②暮らしが宅内外にネットワークで個別につながる
(家族の見守り、遠隔空調制御等)

<あるべき姿>



③暮らしが社会インフラや各種サービスとネットワークでつながり、社会を最適化

出典：JEITAスマートホーム将来ビジョン（CHA協力）を一部改変

普及に向けた2つの課題

調査結果から、認知や利便性への関心は高いものの、利用価値の訴求や初期設定に壁がある。

① 価値訴求の壁（知らない、難しそう）

言葉だけは知っていても詳細は知らなかったり、難しそうと敬遠されてしまう。
提供価値が曖昧または訴求できていない。



利用のきっかけ作りが必要

② 初期設定やデバイス接続（ネットワーク）の壁

消費者にとって、スマートホームデバイスをWi-Fiに接続するなどの初期設定が難しい。
しかもメーカーごとに異なる手順となっている。



初期設定やネットワーク（Wi-Fi）設定の負担軽減が必要

普及に向けた提言

利用のきっかけ作りに向けた提言（1/2）

①家具・家電備え付けの賃貸住宅のスマートアパートメント化

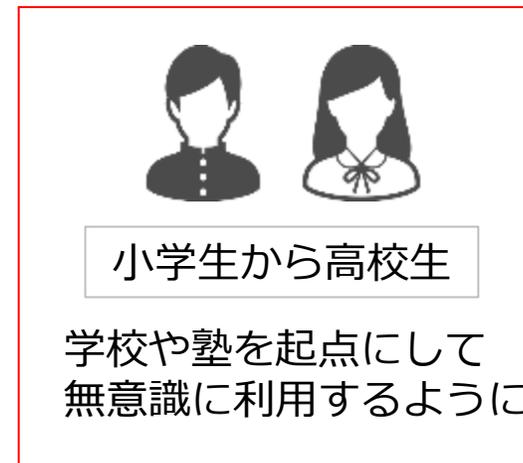
利用意欲の高い20～30歳代へ
利用のきっかけを作る
(パワーユーザー世代への訴求)



- ・賃貸住宅をスマートデバイス付きに
(スマートアパートメント)

②若年層の利用シーンの創出

学童期から生活必需品のひとつとする
(パワーユーザーの育成)



- ・登下校見守り
- ・ロッカーの施錠
等で必需品に

大学生

- ・顔認証での出欠確認・決済
- ・スマートアパートメント

社会人

- ・会社の入退館
- ・持ち家のスマート化

利用のきっかけ作りに向けた提言 (2/2)

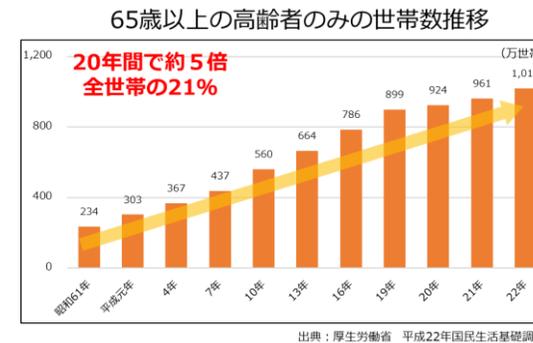
③ 新たな価値の訴求

快適、便利ではなく、**地球環境貢献を価値に**

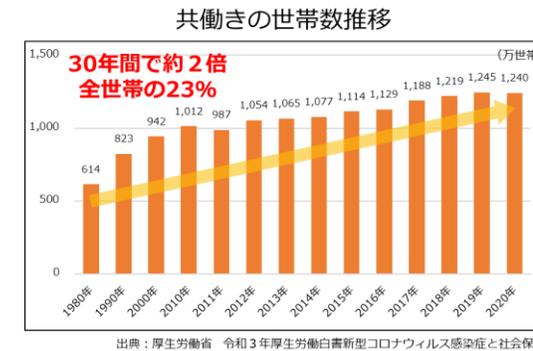


④ 日本のチャンス

日本で進む**超高齢化と共働き世帯増加**に対応



⇒スマートデバイス
や家電の連携により、
高齢者に負担をかけ
ないさりげない見守
りを



⇒時短や効率化に関
心が高く、家事や
子どもの見守り領
域でチャンスあり

初期設定やネットワーク設定の負担軽減に向けた提言

①任せられる事業者の育成

不具合をワンストップで素早く解決する**トータルサービス事業者**または初期設定を請け負う**インストーラー**（次スライド参照）の育成



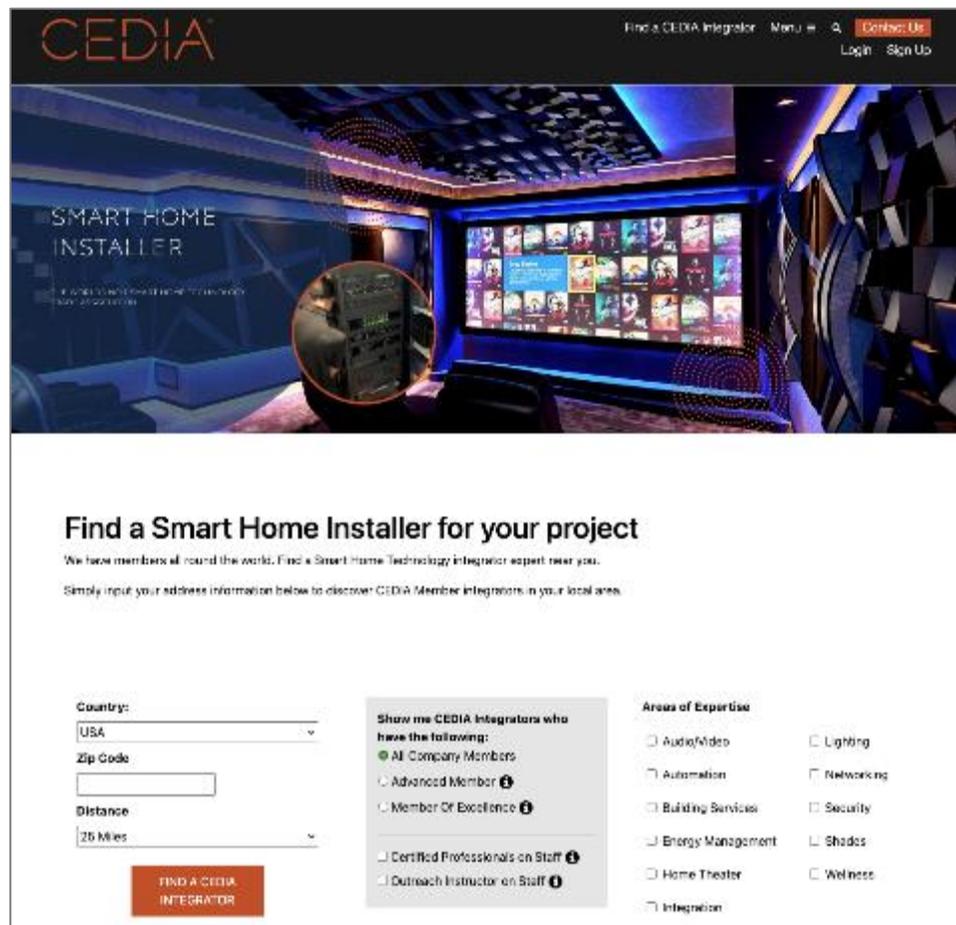
②デバイスのMatter対応

初期設定を容易にする**Matter規格にデバイスを対応させる**



参考：アメリカの事例 「インストーラー」の存在

アメリカでは、スマートホームの導入初期設定を担う「インストーラー」という業態およびその業界団体（CEDIA）が存在。



スマート化を加速する業界団体「**CEDIA**」とは

エンジニア、インストーラー、製造業者、ディストリビューター、コンサルタントなど、広範な背景を持つ専門家からなる施工企業団体。

最新のホームテクノロジーについての教育とトレーニングを提供し、業界の標準とベストプラクティスを開発。

👉 **CEDIAのホームページで
スマートホームインストーラーを簡単に探せる**

CEDIAホームページ

最後に

今後は、あらゆるものがインターネットに接続されるIoT時代が本格的に到来すると思われる。先行するアメリカに追いつくべく、あらゆる業界や企業が丸となり、来たるべき時代に備える必要がある。本レポートが、その一助となれば幸いである。

“暮らしのIoT”に光の道を。



Connected Home Alliance™

※詳細データを反映したレポートは、CHA会員企業向けに提供しています。
CHAへのお問い合わせは、info@connected-home.jp までお寄せください。
(CHAホームページ <https://connected-home.jp/>)